

「狭心症・心筋梗塞」



循環器内科

安部 一太郎

山香病院だより vol.81

るのかといえますと、さきほどお話しした、プラークの脆弱な部分が破れ、そこに血の塊（血栓）が形成され、血管が詰まってしまいます。冠動脈が完全に詰まってしまうと、心臓の筋肉が壊死して動かなくなってしまうです。

心筋梗塞の症状も様々ですが、激しい胸の痛みが30分以上続くことがほとんどです。放っておくと死に至る可能性のある病気で、急性期に治療ができれば、死亡率は5〜10%に低下するといわれています。

狭心症、心筋梗塞の危険因子としては、加齢、性別、気候、家族歴、閉経後の女性など自ら避けられないものと、脂質異常症、高血圧、喫煙、糖尿病、高尿酸血症、肥満、ストレスなど白らの生活習慣で避けられるものがあります。

まずは、予防が大切であり、日々の生活習慣、健康診断をきちんと受けるといった努力や、定期的に医療機関を受診することが重要です。

皆さん一人一人が、ご自分の健康をもう一度見つめ直すことが大切です。

あるきれいな管です。しかし、様々な要因で動脈硬化が進むと、血管の内壁にはコレステロールが粥状にこびりつき、

プラーク、粥腫といわれるこぶのようなものが形成されます。これが血管の内側を細くして血液の流れを妨げ、血液不足を引き起こします。他にも、血管がけいれんを起こして細くなることもあります。

狭心症の症状は様々ですが、胸が重たい、しめつける、圧迫感があるといわれることが多いです。

●心筋梗塞

心筋梗塞とは、心臓の筋肉に血液が完全に流れなくなり、胸が苦しくなる病気です。どうしても血液が流れなくな

こんにちは。循環器内科の安部一太郎と申します。

今回は、狭心症、心筋梗塞について、紹介させて頂いたいただきます。これらの病名は皆さんよく御存じのことと思いません。ではいったいどのような病気なのかというと、「心臓に血液を送る血管の病気」です。

この、心臓に血液を送る血管のことを「冠動脈」と呼び、筋肉を取り巻くように走っている状態が王冠を思わせることから、この名称がついています。

●狭心症

狭心症とは、心臓の筋肉に行く血液が一時的に不足し、胸が苦しくなる病気です。血管はもともと、弾力性の